【名古屋市会場】

１．開催日時・会場

- **日時**　平成 14 年 12 月 1 日（日）13：30～15：30、曇時々小雨
- **会場**　名古屋都市センター　14 階 第１，２会議室

２．出演者構成

- **コーディネーター**
  藤田　素弘　（名古屋工業大学助教授）
- **地域づくり代表者**
  飯田　英明　（名古屋市在住）
  井沢　知旦　（名古屋市在住）
  伊藤　一美　（名古屋市在住）
  梅本　隆弘　（名古屋市在住）
  九鬼　綾子　（名古屋市在住）
  畔柳　剛　　（岡崎市在住）
  真田　亮　　（名古屋市在住）
  鈴村　剛志　（名古屋市在住）
  原　　啓祐　（名古屋市在住）
- **行政職員**
  若林　陽介　（中部運輸局企画振興部長）
  丸山　隆英　（中部地方整備局港湾空港部港湾空港企画官）
  椙山　鋭一　（名古屋市緑政土木局企画経理課主幹）
- **聴講者**
  計 47 名（男性 41 名、女性 6 名）
- **会場風景**

３．会議録

司会　ただいまからビジョン討論会を開始させていただきます。私は、進行役を務めます国土交通省中部地方整備局企画部の新村と申します。

さて、国土交通省では積極的な対話型行政を進めており、このたび中部地方の目指すべき方向として「まんなかビジョン」の中間取りまとめを行ない、広くインターネット等で皆様にご意見を聞いているところです。その一環として、地域の声を聞くために「まんなかビジョン討論会」を中部地方の 4 県、8 会場で実施しており、この名古屋が最後に当たります。

それでは、ビジョン討論会に先立ち、主催者を代表して中部運輸局の若林部長よりご挨拶を申し上げます。

若林　中部運輸局の若林です。本日は、ご足労いただき本当にありがとうございます。

住民の皆様と対話をしながら進める行政手法は、私どもの行政の様々な反省に立って行っています。私、実は成田空港問題に携わっておりました。あれは大変な失敗事例です。住民の皆様と行政の間の信頼関係を完全に崩してしまったものです。2 本目の滑走路ができましたが、それに到るまで 30 年以上の年月がかかっています。また、その間に地域では、賛成派と反対派の間の大変難しい地域分裂を招いてしまったこともありました。

私どもは、そのような反省に立ち、また将来発展する地域をどのように作って行ったら良いのかを、皆様と共に考えて行きたいということで、整備局、運輸局ともに、この「まんなかビジョン」の策定に取り組んでいるところです。

「ＰＩニュース」は、私どもが今進めようとしていることを簡単にまとめたパンフレットです。この真ん中のイメージキャラクターのヒヨコを「ピーちゃん」と読んでいます。このピーちゃん、まだ殻を被っており、人間で言えばまだおしめをした状態です。このピーちゃんの殻を、是非皆様の手で取ってやっていただきたいと思います。今日はどうかよろしくお願いいたします。

司会　若林局長どうもありがとうございました。ここからの討論会の進行は、名古屋工業大学助教授の藤田先生にコーディネーターをお願いしています。藤田先生よろしくお願いします。

藤田　本日、進行役の名古屋工業大学の藤田と申します。専門は交通工学、交通計画学です。昨今の社会情勢における一番大きな変化は、日本の人口が十数年で停滞、さらには減少していくことであり、非常に大きく社会が変化していく転換点に立っていると思います。このような時代に活力を維持するためには、地域内の交流を活発にすること、そして日本全国からこの地域に来てもらう、さらには、世界各国から来てもらうことが必要です。そのように訪問してもらえる都市になる。そういう魅力づくり、個性ある、豊かな地域を目指していくことが第一に必要ではないかと思っています。それ以外にも、環境や安全など、非常に課題が山積している中で、どういったことに着目して進めれば良いかということを考える必要があります。但し、そのような問題は地域に密着した問題が多いため、地元の住民の方々にしっかり意見を聞いて、意見を吸い上げながら、集約してまとめていくという作業が重要ではないかと思います。

そうした中で、今回の「まんなかビジョン討論会」は、皆様の意見を集約することを目的としています。これまで行政が中心になって進めてきたものに対して、地元の意見をしっかり入れ、さらに良いベストな方策を決めていくのが本会の趣旨だと思います。ご発言の方々には、自由・活発に、率直な意見を言っていただき、今後取りまとめ作業を進める行政側に、しっかりと自分

の意見を訴えることが必要だと思いますので、よろしくお願いします。
　会の進行のプログラムは、まず発言者の方々に自己紹介をしていただきます。そして、第 1 回目の発言をいただきます。その後、会場の皆様に中間取りまとめ報告書に対するアンケートをさせていただきます。その集計の途中に第 2 番目の発言を発言者からいただき、その後、会場からの意見を交えながら討論が進められればと思っています。それでは、自己紹介をお願いします。

飯田　名古屋市中区の飯田英明です。矢場町交差点近くの矢場地蔵尊の住職をしています。また以前、名古屋都市再開発研究会の幹事長をしていました。今は、財団法人日本不動産研究所に勤めています。それで今は、単身赴任で東京の港区に住んでいます。
　名古屋のまちをどうしたいか。キーワードは、「よいコミュニティをいかに作り上げていくか」と「自然景観」です。名古屋は人工的に作られた都市ですから、どうしても自然景観が少ない。これから水と緑を徹底的に構築して欲しいと思います。よろしくお願いします。

井沢　名古屋市緑区の井沢知旦です。都市計画や再開発事業の様なまちづくりを支援するコンサルタントにいます。コンサルタントをしていると、地域に密着しながら、地域の資源をいかに活用するかということで仕事を進めざるを得ません。また、工業製品と違い、一つひとつ手作りにならざるを得ないことから、「知的地場産業」「空間芸術産業」によるまちづくりを進めたいと考えています。先般、上海に行って来ました。所得は 10 分の 1 ながら、みんな明るい。日本は暗い。この差は何なのか。希望があるかないか。是非希望のあるビジョンを作りたいと考えています。

伊藤　千種区の伊藤と申します。「子ども＆まちネット名古屋」という、法人格はありませんが、ＮＰＯ的団体の代表をしています。私どもの団体は、子どもが野外で遊ぶ時の企画や参画事業のためのコーディネーター、冒険遊び場の世話人、親子教室やサークルのリーダー、フリースクールや不登校の子どもたちの相談事業、カウンセラーや主任児童委員、地域の役員、そして行政の方など、種々雑多な、子どもの育ちと子育てを応援する人のネットワークです。
　私は、子どもが大人になって自分の過去を振り返った時に、このまちで生まれ育ってよかったと思えるまちになって欲しいと思います。また、親にとってはこの地域で子育てができて本当によかったなと思えるような、そんな地域になると良いと思います。

梅本　名古屋北区の梅本です。北区は、町のはずれのような感覚を受けますが、私は名古屋のど真ん中に住んでいると思います。名古屋の町の中を流れる堀川を綺麗にするために、毎日努力しています。それと同時に、名古屋を流れる庄内川、堀川、黒川、これを全て綺麗にしたい。私は、小学校の PTA 会長も務めており、川に「よい子はここで遊ばない」という看板が出ています。黒川、堀川の上流の方は安心して遊べる川にしたい。「よい子はここで遊んでください。」という看板に書き換えられるように努力しています。

九鬼　名古屋市千種区の九鬼綾子です。千種区の日泰寺の近くに住んでいますが、生まれ育った所は元の木挽町で堀川端に住んでいました。一度も名古屋から出たことがなく、ずっと名古屋の住人です。私は、「ミックインターナショナル」という、通訳、翻訳、国際会議の同時通訳アレンジなど、海外駐在員の方たちの色々なサポートサービスをする会社をやっています。
　私は、過去・現在・未来、この地域が持っている有形、無形の資産を、あらゆる立場の人が大

事にしたいという意識が全国一になるような地域になると良いと思います。

畔柳　岡崎の畔柳（くろやなぎ）と申します。岡崎市を中心に土木事業に携わっています。私は、グローバルな視野でこの中部地区を中心とした街が、子供たちにとって誇れるような街になるよう、一人でも多くの方が貢献できるよう考察していきたいと思っています。

真田　名古屋市東区の真田と申します。私は、特に地域づくりとかまちづくりに参加しているわけではなく、市内のメーカーに勤務していますので、この地区が日本の製造業の中心的立場として発展していくことを期待しています。

鈴村　名古屋市南区の鈴村と申します。私は、ＮＰＯでまちづくり活動を行っています。日頃の活動は、道路をパトロールして歩き、その中から色々な異常を発見すると、それをそれぞれの機関に連絡するというような活動がメインです。これからの中部、名古屋は、「へそ」として中心都市として、土台のしっかりした、少々のことで揺らぐようなことのない都市になって欲しい。「誇りと愛着の持てるまち」を目指して日夜頑張っています。

原　名古屋市北区の原と申します。社団法人名古屋青年会議所の理事として、人づくり、まちづくりの活動をしています。今年度は、特徴ある名古屋創造委員会において、名古屋の町の特徴を生かした新しいまちづくりのムーブメントを起こす活動に携わっています。その中で、誰でもできるまちづくりということで自転車に着目し、この 10 月に名古屋ケッタフェスティバルを、名古屋の栄で 2 日間、開催しました。そして、「市民自転車フォーラム」という、自転車視点からまちづくりをしていこうというＮＰＯを目指す団体を立ち上げようとしています。国土交通省には、愛・地球博ウェルカム・マップという新しい事業がありますが、この中で万博会場に自転車で行こうというクリーンマップ作りを国土交通省と共同で進めています。私は、名古屋がヨーロッパのまちのような自転車大国、「環境に配慮した自転車のまち」になれば良いと思います。

菅野　名古屋市緑政土木局企画経営課の菅野と申します。私は、緑政土木局で、道路、河川、公園等の社会基盤整備の企画担当をしています。今日は、色々な皆さんからご意見を拝聴させていただいて、今後の名古屋市の行政に反映していきたいと思います。

若林　北区の名城公園の横の官舎に住んでいます。30 年前は東山公園に住んでいました。今は運輸局に勤めていますので、私はこの名古屋が、できるだけ自動車ではなく公共交通機関や自転車を利用できるようなまちになると良い、そういう「環境にやさしいまちづくり」が良いと思います。また、観光も関係していますので、名古屋を訪れたお客様がもう 1 回来たくなるようなまちになると良いと思っています。

丸山　中川区の丸山と申します。私は、中部地方整備局で港湾と空港関係の仕事をしています。生まれは、北海道に美唄という炭鉱の町です。名古屋には、「東京・大阪とは違う、国際色豊かなまち」になって欲しいと思います。また、「あったかいなと思えるようなまち」になって欲しいと思います。

藤田　ありがとうございました。それでは、第 1 回目の発言をお願いします。第 1 回目は「私が考える地域」について、日常生活や地域活動の中で日頃感じていること、または問題意識や課題等について自由に発言して下さい。よろしくお願いします。

飯田　まちづくりのキーワードを「コミュニティ」「緑」「水」とした理由は次の２点です。1 つは、まちづくりをしていくためには、単にその地域の状況だけを考えても難しいので海外との連携が必要だと思います。但し、外国のまちを一概に何でもかんでも真似をすれば良いというわけではなく、まちづくり、都市づくりの考え方を参考にする。そういう交流を是非して欲しいと思います。

2 つ目は、名古屋地域、中部圏は、首都圏と近畿圏の中間に位置し、非常にポテンシャルの高い地域だろうと思います。そのポテンシャルを引き出す一つの手段として、都市に企業を呼び込むと良いと思います。企業の投資条件としては、土地価格が東西に比べて水準が低く、投資のしやすい環境になっています。それから、土地だけではなく、例えばオフィス等の賃料水準も東京・大阪に比べて随分低くなっています。そういう点で、企業にとって非常に負担が軽く進出がしやすい。そういう所をもっともっと推進するような動きをしていけば良いと思います。

そして、3 つ目は、「コミュニティづくり」「水と緑」に関連することです。1 つは自分たちが住んでいる都市が、一番好きな都市になるようなことをしなければいけないと思います。数年前に名古屋商工会議所が全国 5,000 人強を対象にアンケートを行ったのですが、その中に「自分の都市が一番好きだ」という項目があり、名古屋は 13 都市中 13 番目でした。誰も住みたいとは言わないのです。まちづくりを本音で語るときに、何が一体そうさせているのかをきちんと掴んでおかなければ、上辺だけのまちづくりになり本当に良いまちにはならない。良いコミュニティはできていかないのではないか。

それから、名古屋、中部圏はモータリゼーションが進んでいる。それは交通アクセスとして非常に重要なことだと思いますが、人と車の分離ができていません。車がダメというのではなく、「人優先のまちづくり」「歩車道分離」、自転車レーン等も含めて「もう少し人が優先できるまち」にしてほしいと思います。

井沢　今、みんな予算カットで、国も自治体も非常に財政が逼迫してきています。しかし、ここを整備して欲しいというハード整備の要望は依然としてあるわけで、限られた予算の中で整備をするとなると 2 つの道しかありません。1 つは、今まで 5 年かかってきたものを、予算が 2 分の 1 になったら 10 年でやるようにスピードダウンを図るか、集中的にやる所と繰り延べてやる所という仕分けをして優先順位をつける。その 2 つの方法が考えられますが、いずれにしても住民のニーズはこれからの成熟社会の中で、ますます質的にも高まっていくのではないかと考えます。

そうなると、今まで作ってきたものの有効活用が、これからのまちづくりにとって非常に重要なテーマになるのではないか。作ったら終わりではなく、作ってからどう使うかというところが一番重要なテーマだと思います。しかし、作るまでは一生懸命になるのですが、作った後はあまり関心を示さない風潮があると思います。道路や公園などの公共空間は、効率良く整備する前提に立つと、官が整備して管理する方が良いということで、そうなってきました。しかし、江戸時代は地元が面倒を見ていました。明治に入り近代国家ということから、官と民の線引きが明確になってきて、公共空間は官が整備するということになりました。その結果、道路は歩行者や自動車の交通を円滑にする。河川は利水もありますが、治水をテーマに整備されています。しかし、

そういう目的だけで果たして市民にとって良いのかどうか。すなわち、住民のための空間でありながら、住民が使いづらい空間になっているのではないか、という見方でチェックしてみる必要があると考えます。

例えば名古屋の都心には、戦災復興のシンボルとして 100 メーター道路や 50 メーター幅員の道路が整備されました。その幹線街路の歩道にオープンカフェ、また、川の沿道に散策路を作ろうという取り組みを今進めています。オープンカフェや市民ギャラリーを作ることで、市民がもっと利用しやすい空間にしてはどうかという提案です。3 年間実験をしてきましたが、当初は、公共空間をオープンカフェに使うのはダメという話でした。市道でしたので名古屋市は道路管理者としてやろうと決定したのですが、警察がなかなか許可しませんでした。道路は歩くだけじゃなく、そこで立ち話をし、立ち止まって風景を見、あるいは人とコミュニケーションを交わす、そういう多目的な空間ではないでしょうか。もっとうまい使い方をしましょうということです。こういう活用を図ることによって、多様な市民生活が息づく都心空間が生まれるのではないか。その結果、住民の満足度も高まるのではないか。例としてオープンカフェ、歩道をあげましたが、それは河川、公園、すべてのことについて言えると思います。そのために、公共空間の管理にかかる法律の規制緩和が必要だということと、緩和すれば OK ということではなく、それを地域で管理する主体をきちんと作ること。この 2 つで、豊かな都心空間を作っていきたいと考えています。

伊藤　私は、少子高齢化の視点なしにこれからのまちづくりは考えられないと思います。私たちが普段接している若い親たちは、地域とかまちの感覚が全然ありません。子どもに就学通知書が来て初めて、自分の小学校区が分かるというレベルの人もいるようです。それは幼稚園や保育園に、バスや自分の車で送迎して、どんどん地域の外へ出ていってしまうからではないかと言われています。

もう１つ、名古屋から他の地域に引っ越した後、名古屋には二度と住みたくないと思う転勤族は、おそらく名古屋にいたときに地域の中で良い出会いをしていないのではないかと思います。子どもを遊ばせていると、「うるさいからあっちに行け」とか「子どもは公園で遊べば良い」というように追い出されたり、マンションで「子どもの声がうるさい」と文句を言われたりということが起きているのではないか。名古屋は、東京と比較して大型公園は少ないのですが、児童公園は充実しています。児童館も区に１つずつ設置されていますので、そうした建物には恵まれていますが、それがうまく活用されていない。児童公園の遊具やプログラムの魅力的がないのではないか。児童館にしても、どうも乳幼児向けにできていない。中味のソフトの部分が研究されていないと感じます。

そして、今日の集まりも女性は九鬼さんと私の 2 人です。まちづくり、国づくりになると、どうしても男性主導型になってしまいます。男性と女性では、まちづくりへのニーズが違うと思うので、是非女性の観点を入れて欲しいと思います。また、子どもの視点も是非入れて欲しいと思います。例えば、親が欲しいと考える子育て支援のニーズと子どもが実際に欲しいものとは明らかに違います。大人は合理的なものや便利なものに流れがちですが、子どもは、これが一体何の役に立つのかと思うような無駄なスペースに基地を作って遊んだり、あるいは非常に不自由で不便なものが子どもの中で実はすごく大事だったりします。ですから「子どもは公園に行ってしまえ」と言われるような話を無くすためには、地域の中に「ここはいつも子どもたちが遊んでいる場所だからしようがないな」というような、そういう無駄なスペースを作るとか、かつての路地

遊びを復活するとか、オママゴトの材料に十分なものが揃うような雑木林や空き地や草むらを確保するということを意識的に進める必要があると思います。

梅本　堀川上流の黒川は、地下鉄工事の間、地下水を流してもらうことで清流が復活しました。海外から名古屋へ来られた方が、少し時間がある時に、ここ 2、3 年は黒川の上流を見せに行きました。すばらしい清流を見てもらうことで、良いイメージの名古屋を思い出に帰っていかれたと思います。

夏になると子供達 7、80 人を学年単位で川へ連れて行きます。そこで魚を捕ったりザリガニを捕ったりして、子供たちに自然の中で体験学習をさせています。町の中の川ですからほとんど危険はありませんが、横から流れが入っていれば、必ずそこの下は深くなっているということを身をもって体験させて、危険な場所を恐れるようにしています。子供たちだけでなく、私たち大人も含めて安全に川遊びが楽しめるような場所を、黒川だけでなく天白川にも作りたいと思います。道路ばかりでなく、川の縁でバーベキューなどができるような場所を多く作れるような、自然が沢山ある場所にしていきたいと思います。

九鬼　地域を活性化させるためには、交流人口を増やすことだと思います。モノづくりの技術をベースにしたしっかりした企業が、この地域にはかなり沢山あるので、国内外からかなりの交流人口があると考えて良いと思います。だから、経済的な安定は十分見込めるわけで、なおかつ、製造業がしっかりしているということは、私どものようなサービス業にとっても重要なことです。

交流人口として来訪された方達に、仕事以外の面で食やエンターテイメントなどの文化を感じていただくために、どうすべきかということを考える必要があると思います。先程、名古屋は住みにくいと言われているというお話しがありましたが、私は名古屋に 48 年間住んでいますが、あまり感じたことはありません。単身赴任者が、名古屋はこりごりと言って出て行ったということを聞いたことはありません。名古屋の水は美味しいし、和菓子は京都の水準を上回ると思っています。和菓子が美味しいということは、「お茶の文化」を支えている人がしっかりいることを意味します。

それから、名古屋で連れていく場所が無いという話もありますが、例えば名古屋城は、あれだけでテーマパークになる位の規模があります。他にも挙げたらきりがないくらいテクニカルビジットの場所が沢山あります。また、名古屋には古墳が西日本の中では一番沢山あるということを聞いたことがありますが、誰も古墳を見に行こうとか古墳を盛り立ててこの地域の目玉にしようというところがない。過去の人たちが残してくれたものによって、この地域は大変なポテンシャルがある。また、文化を支えている家元という方たちも、他の地域に比べると多くいらっしゃる。折角あるそういったものをどうコーディネートしていくか、コーディネート機能をどこがまとめていくかということだと思います。

もう 1 つ、今日はちょっと雨が降っていましたが、地下鉄を出てからここまでは雨に濡れないと入れません。あるものをもう少し何とかすれば、ものすごく有効に使えるものが沢山あるのではないかと思います。

畔柳　社会資本整備には、今の消費を切り詰めるという自己犠牲が必ず伴います。誰もが自分の消費を優先させている現在の社会状況では、社会資本は蓄積されない。21 世紀の都市づくりにおいては、行政のみに任せるのではなく、一般市民の参画と協力が重要な役割を果たすことになる

と考えています。「循環型社会づくり」の主人公は、そこに住む市民であり、住民であり、エコビジネスを作るのも市民が実施するものです。そして、市民の熱意の高まりによって循環型社会づくりのための合意形成をすることができれば、行政は市民と一体となって都市環境改善の道を開くために、環境修復財源の確保ができるようになると考えます。

中部地区の中枢には、農林水産から機械、自動車、建設にいたるまでの製造業が座るべきです。落ち込んだ製造業に新しい風を吹き込んで、自信を回復してもらうことが必要です。金融サービスも日本では発展の余地があると考えます。「構造改革」は、考え方として重要です。

既存の分配の機軸が通用しなくなり、機軸をめぐる対立が起きています。例えば、東京を中心とする中央と地方観、男女観、世代観という、従来の分配機軸を支えてきた幾つかが壊れつつあります。社会的公正とは何か、政治家、官僚、企業人、それぞれが一体となって新しい時代の公正な分配のロジックを考え、提言する必要があると考えます。

真田　名古屋は、東京と大阪に挟まれた地域なので、若干影が薄く、個性がもう一つはっきりしないため、少しネガティブな形で色々言われてきています。しかし、実際には文化でも自然でも、また産業・観光資源でも、それぞれに力があると思います。従って、それぞれの分野をバランス良く発展させ、それを外に向かって発信させていく努力が必要ではないかと思います。

中部地区は製造業が盛んであり、先端技術でも日本有数の企業が幾つも存在しています。この辺が強みであり、これからも強みになって行くと思います。しかし、そういう分野は常に全世界で競争にさらされており、いつどうなってしまうか分からない状況にもあると思います。従って、地域づくりのためには、そうした企業をサポートしていくような施策が必要だと思います。具体的には、製造業を支える人材が大きな問題かと思います。若い人が如何に製造業に興味を持ち、それを支えていくか。若い人たちが名古屋や中部地区で学び、働き、そして暮らすことに魅力を感じる地域にして行く必要があります。若い人は、どうしても東京指向、中央指向ですが、その理由は東京には楽しい遊び場所が沢山あるだけでなく、世界的な最新情報に触れることができ、それによって自分の能力を最大限に発揮できるチャンスに恵まれるのではないかと感じているからだと思います。

そういう観点から、名古屋地区に情報通信関係のインフラ整備、大学の教育環境の向上、時代や地域のニーズにマッチした学部や学科の設置、またモノづくりに携わる若い人たちの横のネットワークづくりを進め、それによって意欲向上、レベルアップに繋げる環境を整える必要があると思います。そういう形で若い人たちにとって魅力ある地域にしていくことが非常に大切なのではないかと感じています。

鈴村　私はＮＰＯのまちづくり活動で、パトロールや川の清掃活動をしています。何故、そういう活動をするのかというと、自分の地域は自分で守るという意識で、また、私たちのやったことは全部、自分に返ってくると思ってやっています。行政に任せれば、それは税金という形で自分たちに返ってきます。昔は、自分家の前の打ち水とか、落葉拾いとか、草むしりは自分でやっていました。そういうことは、それぞれ自分たちでやるべきだと思います。

安心して安全な所に住みたいというのは、全ての人の望みだと思います。また、何千年も昔からの人間の望みだったと思います。私達の夜のパトロールでは、街路灯のチェックをしています。今、名古屋市内では 2 割くらいの街灯が、点いていないと思いますが、私達が活動している南区では、99.9%明かりが点いています。女性の方は、夜暗い所は嫌でしょうが、私たち男にとって

も暗い都市は嫌です。やはり防犯面でも明るい都市が良いと思います。
　都市の土台がしっかりしていれば、どんなイベントを企画しても何をやっても揺らぐことはありません。モラルの向上を図るためには、地域の生活環境をしっかり整備してコントロールすることです。そうすれば自然にモラルは付いてきますので、安心安全で、誇りと愛着の持てるまちができてくると私は思って活動しています。

原　私は、中部地方は環境を重視したまちづくりを進めるべきであると考えています。何故なら、中部地方にはトヨタがあり、国内外に自動車を沢山販売しています。そのために、CO2 がどんどん出ています。京都議定書では、CO2 削減を大きく掲げています。名古屋はトヨタに関連した企業もあり、それで生活している人も多いのですから、環境に意識を置くべきだと思います。中国やインドなどの非常に人口が多い国へ輸出された自動車が利用され、大量の CO2 を出し続ける。その結果、地球温暖化が加速された時に、日本が国としてなかなか文句が言えないのではないか。「日本は CO2 を出す車をどんどん売って利益を出しているじゃないか。」と言われた時に、ご当地の名古屋が意見を言えるためには、CO2 を減らす活動を日本で一番行っていることが必要です。
　そこで、自転車が CO2 削減に本当に有効な乗り物であるということを皆さんに知っていただきたい。そして、自転車の乗りやすいまちづくりをして欲しいと思います。自転車は、思ったよりも速くとても便利な乗り物です。また、目的地までの道程に、名古屋の町並み、つまり文化も目に付きやすい乗り物です。古い屋敷町や下町の商店街は、本当に名古屋の文化、財産だと思います。他地域から来た人達に、そうした文化を見てもらうには自転車というツールがとても重要だと思います。
　2005 年の万国博覧会では、私達の市民自転車フォーラムが自転車を使う観光マップを作りたいと思っています。例えば主要なシティホテルにレンタサイクルを配置し、ホテル間の乗り捨てを可能にすれば、外国人が名古屋のまちを巡りやすくなります。そんな自転車をツールにしたまちづくり名古屋を PR すれば、本当にこのまちがどんどん良くなると思っています。
　中部地方に足りないものがあるとすれば、ちょっと大風呂敷な「こうやるんだ」という明確なビジョンと、ハッタリに近い思い切った提案・活動だと思います。それができれば、本当に名古屋のまちは「楽しいまちだ」と言われるようになると思います。いわゆるスローライフ的なまちというか、ゆっくり行きましょうというまちになれば良いと思っています。

藤田　ありがとうございました。ここで、「まんなかビジョン」のパンフレットの概要について説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

司会　それでは、「まんなかビジョンの中間とりまとめ」について説明させていただきます。
　まず、表紙については、我々の住んでいる所は日本のど真ん中で、日の丸弁当の梅干のような位置だと思っています。梅干 1 つで食べるより、21 世紀をみんなで語り合いながら、この上にどんどんトッピングをして、日の丸弁当を幕の内弁当に変えていきたいということです。
　次は、ビジョンの番号順に見方の説明をいたします。まず、1 番目、ローマ数字で中部地方の目指すべき方向として、7 つの目標を示しています。2 番目は、この目標を分かり易く解説しています。　3 番目は、現在の状況や理想とするイメージを写真で表現しています。4 番目は、図表とデータで中部の状況を示しています。5 番目は、「アウトカム目標」を示しています。従来の目標は、道路を何キロ作るとか川を何メートル整備しますという、アウトプットを示しましたが、今

後は整備した結果どの様な効果や成果が現われるかという、いわゆるサービス水準に視点を置いた目標を示していこうという考え方です。これをアウトカム目標と言い、このビジョンの特色になっています。6 番目は、アウトカム目標がどこまで達成できたかという、業績を評価する数値や状況の変化を表わす一例を示しています。7 番目は、私どもの目標に対して皆様に考えてもらうための行動や方針を示しています。

まず、Ⅰ番目は「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」です。日本の国際競争力がだんだん低下していますが、今後とも中部が日本のモノづくりの中心であり続ける必要があると考えました。Ⅱ番目は「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」です。地域が発展するためには、その地域の拠点都市の活気を生み出すことで、そこに人が集まり、情報が集まり、物が集まって、近隣地域全体の利益が広がると考えました。Ⅲ番目は「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」です。私たちの日々の行動は、交流によって成り立っています。通勤、通学、買物、レジャーなど、すべてが交流であると考えます。これらも交流が地域の経済活動を活性化し、あるいは地域の原動力となっていくことは言うまでありません。名古屋都市圏は、渋滞などにより閉塞感があります。従って、環状道路の整備によって新たに交流を生もうということで、この目標を掲げています。Ⅳ番目は、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」です。先ほどよりもう少し広く内外の交流について目標を立てました。東名等の東西軸も、今や動脈硬化を起こしており、それを健全な状態に維持保全し、有効に活用することが必要です。そして南北軸についても、日本海に向かう道等も必要と考えⅣ番目の目標を掲げました。Ⅴ番目は「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興」です。中部には、非常に豊富な自然、歴史、文化の資源があります。これらの資源を守り育てることはもとより、活用しながら地域の発展を目指していくことが必要だと考えました。Ⅵ番目は「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」です。私どもの生活の中で最も基本的な目標だと思います。少子高齢化は着実に進んでおり、お年寄りや不自由な方たちの生活環境を整えることで、より豊かな生活環境を目指すことを目標に掲げました。最後にⅦ番目は「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。日本の国土は災害に対して非常に脆弱です。さらにこの地域は、東海地震や東南海地震等、大規模な地震が想定されており、多岐に渡る自然災害が危惧されています。尊い人命や財産を守るために、備えを早急に実現させることが必要だと考えこの目標を掲げました。なお、ⅠからⅦまでの順番は優先順位ではありません。

また、これらの 7 つの目標がすべてであるとは考えていません。不足していることも色々あると思います。今日は皆様からご意見を聞きながら、より多くの人が納得できるビジョンにしていきたいと考えています。以上、簡単でございますけど、説明させていただきました。

藤田　ありがとうございました。続いて、「まんなかビジョン」のアンケートを会場の皆様を含めて取りますので、よろしくお願いします。

司会　まず、目指すべき 7 つの目標に対して、名古屋地域として一番重要と思われる目標の番号を１つだけお書きください。それから、中部ブロック全体として何が重要か、7 つの方向のうち１つお書き下さい。

藤田　アンケートの集計までに、私からこのビジョンについて所見を述べさせていただきます。

この「まんなかビジョン」は、市民の意見を聞いて反映させながら次の時代の中部圏のビジョンにしていこうというものです。これは、パブリックインボルブメントの取り組みの典型例です。

さらに、この「まんなかビジョン」は非常に広域的です。中部圏の行政、産業界が広域的に連携して作成し、会場も 8 カ所と広域的に連携し、住民から、それぞれの立場、それぞれの土地における意見を集めようとしています。日本全国で初めての取り組みではないかということでした。

このビジョン討論会の目的は、中間報告の内容に皆さんの意見を加えたいというものです。ですから、どんどん意見を出していただけば、行政の方々もそれを受けて、今後の施策に反映させ、まんなかビジョンの中に取り込んでいただけると思いますので、よろしくお願いします。

集計の途中ですが、第 2 回目の発言に行きたいと思います。第 2 回目は、「まんなかビジョン」のパンフレットの中味を意識して、実際にどんな目標を立てていけば良いかという、もう少し具体的なお話をお聞かせ下さい。

原　誰もが生き生きと暮らせるというⅥ番の中で、是非「自転車の走りやすいまち」にしていただきたい。自転車が環境に良いことは、先ほどお話ししましたが、実は健康にも良いわけでダイエットにもなるし、万病に効くと言われています。この様な乗り物の利用を広げるためには、走る道が不可欠です。名古屋は道が広いので、あまり問題にされませんが、自転車が通る道は歩道なのか車道なのかということがよく議論になります。道路交通法では、原則車道ということです。名古屋は歩道が広いので、歩道を走ることが多いですが、デコボコでとても走れたものじゃない。そうかといって車道に出ると危ないと言われる。自転車は、本当に行き場のない乗り物になっています。

ドイツのミュンスターという町は、本当に自転車を中心に交通手段が考えられた町であり、すばらしい町だと感じました。また、オランダのアムステルダムもそうした町だと聞いています。ゆとりがあり、ゆっくりと、生き生きと暮らすことができれば、利用者の健康も増進されるし、環境にも良い自転車が、本当に安全に、安心に走れるように施策を付け加えていただくと良いと思います。

もう 1 点は、乗る方のマナー教育も必要だと思います。学校などにも自転車の乗り方指導を義務づけて、自転車教室を開いたり、免許制度にするなど、子供のうちからそうしたマナー、ルールを守るように教育すれば、今後自転車が危ない乗り物になることはないと思います。

藤田　ありがとうございました。ただいま集計結果が出ましたので、結果の説明をいただきます。

司会　集計結果のご報告させていただきます。母集団は 56 です。

まず、名古屋地域の 1 番目は、Ⅱ番の世界都市が 28 票でした。次が、Ⅵ番の誰もが生き生きとして暮らせる豊かでの 11 票でした。その次が、Ⅶ番の東海地震の 6 票でした。以下、Ⅰ番のモノづくりが 4 票、東西軸が 4 票、豊かな自然 3 票でした。

一方、中部地方全体では、１番目は、Ⅰ番のモノづくり産業の国際競争力の 13 票でした。2 番目は、Ⅴ番の豊かな自然環境、歴史、文化、観光振興が 12 票。3 番目に多いのが、日本のまんなかである優位性、東西軸・南北軸の 10 票。Ⅶ7 番の東海地震が 9 票でした。後は、Ⅲ番の環状都市圏が 6 票、世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレードが 3 票、誰もが生き生きと暮らせる豊かでゆったりとした生活が 3 票でした。

藤田　ありがとうございました。以上のような結果で、ご当地の状況を反映した「名古屋市を国際拠点に」が多かった。他都市の例を見ると、伊勢と高山の会場で行った結果では、観光が重視され、四日市ではモノづくりが重視されるなど、それぞれ地域の特性が出ていると思います。それでは、先ほどの続きをお願いします。

鈴村　自転車は、省エネの関係や、広い濃尾平野であることや、パーク・アンド・ライドも進むことを考えれば、今後とも利用が進と思います。そうすると、歩道のインターロッキングブロックは、自転車にとっては非常に走りにくい。これは自転車だけの問題ではなく、バリアフリーの関係でいくと車椅子にも大変つらい。ガタガタして、とても乗っていられない状態です。また、傾いた道路や歩道も大変困ります。それから、モラル面では、自転車や違法広告物による歩道の占領によって、健常者ですら歩けないような道になっています。

また、見通しという面においては、街路樹によって見通しが悪くなっているところがあります。低木は低く、高木は刈り上げることによって、随分見通しが良くなります。交通安全上、街路樹の手入れをきちんとしていただきたいと思います。

自転車は、雨や坂道や大きな荷物が苦手ですので、バスに自転車を乗せられるようになると良いと思います。そして道路は、歩行者、自転車、バス路線、一般車両などの通行区分が必要だと思います。また、街路灯を整備して、車から自転車が確認できる明るさのまちにして欲しいと思います

真田　私は、中間取りまとめの中で、Ⅰ番の「産業の国際競争力の強化」とⅣ番の「日本のまんなかである優位性を活かした東西・南北軸の再生、拠点整備」に期待しています。また、自転車の話も非常に魅力的で、名古屋に自転車専用道路が縦横に通ればすばらしいことだと思います。

しかし、やはり産業基盤の整備が、地域の活性化や豊かな暮らしに繋がる重要な要因であると思います。幸い今は中部地方の製造業に力がありますが、国際的にいつまで通用するかは、日々の努力次第だと思います。その意味で施策が重要であり、具体的には物の流れや人の動きに関わる機能を強化する、あるいはコストを低減していく必要があると思います。例えば、空港アクセスを向上する、空港使用料を安く設定する、有力な国際路線を確保することなどで中部国際空港の競争力を高めることが必要だと思います。それから名古屋港では、アクセス道路や施設使用料の問題、コンテナ用埠頭の大水深化など、名古屋港の競争力強化も非常に重要だと思います。

2 番目に、情報通信に関わるインフラの整備と低コスト化が必要です。首都圏に比べて情報量や情報収集量がどうしても見劣りしますので、この分野の強化が魅力的な地域づくり必要だと思います。情報通信や電力のコストが、日本は世界的にまだまだ高いと言われていますので、検討が必要かと思います。

3 番目に、製造業や先端技術などの維持、発展のための社会的環境の整備が必要です。例えば、企業進出、工場立地のためのサポートや先端技術研究に関わる大学や各種研究機関の強化・育成が挙げられます。また、研究機関と産業の連携のためのネットワークづくりが重要です。いずれも基本的には民間の努力が重要ですが、規制緩和や税制面も含めて、是非施策として取り組んで欲しいと考えます。

畔柳　「自然と人間の共生のための環境づくり」、そのための「省エネ、省資源、ゼロエミッションの社会」。それができるのは、まんなかである中部地区であると考えています。これらの目標は、

個性のあるアイデンティティのあるまち、人と人が優しくふれあえる環境コミュニティを形成するために、21 世紀の都市計画が為すべき重要な目標と課題であると考えます。名古屋市では、ゴミ問題が身近な問題として取り上げられてきており、環境に対する市民の目覚めの兆候であると推察しています。一人ひとりの市民が、そこに住みたくなる、安心して住めるまちづくりを進めることが、小手先ではない解決策だと思っています。それぞれの人が、それぞれの場で、当事者意識を持って草の根運動を行うとともに、その運動を次世代に引き継いで行くことが大切だと思います。

九鬼　「まんなかビジョン」は、かなり諸方面に配慮された、正直言うとすごく盛りだくさんというか、てんこ盛りという感じがします。確かに記述に間違いは無いのですが、やはり限度というものがあるので、この中で優先順位をつける必要がある。そうしないと、結局パンフレットはできましたが、会議多くして実り少なしということになります。実際に進めることが重要なので、その辺りを危惧します。

私ども住民、いわゆるタックスペイヤーが、やってくれとか、これが欲しいという時代は、誰が見ても終焉を迎えています。これからは逆に、問題を解決するために地域から上がってきた声を、規制等で潰さないようにすることと、誰がそれを担当するかということを考えるべきだと思います。

またこれからは、再開発等を進めるときに、対象となる町並みや施設に過去にどういう意味合いがあったのかを調査し、できるだけ保存するようにして欲しいと思います。そうすれば、それぞれの地域に特徴のあるものが生まれてくる。それには他省庁との連携も重要なポイントになると思います。また、行政が少し視点を変えることも必要ですが、住民も高望みしない、要求し過ぎないということが必要だと思います。

梅本　Ⅶ番は、最近の地震問題を反映した目標ですが、逆に見れば、これほど安全な地域はないと思います。何故なら、建物や橋梁など、全てのものが地震を前提に設計されています。また、食糧の備蓄や避難経路の確保などについても日頃から言われており、避難訓練まで行っていますので、ある面においては安心して住める町ではないかと思います。しかし、いつ災害が来るか分かりませんので、災害に対して強いまちを作っていっていただきたいと思います。

それから、名古屋には、お茶やお花など色々な文化があると思います。形のある文化だけでなく、無形の文化も掘り起こしていただきたいと思います。

伊藤　子どもを視点にした話をしたいと思います。自分の子育てが上手くいったと思えるのは、自分の子どもが家庭を持ち子どもを持った時に初めて、そう思うことができると言われています。つまり、自分の子どもに未来を託せると思えたときが、子育てが成功したと言えるのではないかと思います。今、議論している理想の中部の姿になった時に、出生率が落ちてしまっては、元も子もないと思います。やはりその点を是非、踏まえていただきたい。子どもは言葉を発しませんので、代わりに大人が見てあげなければいけないと思います。

今、乳幼児の 3 分の 1 に何らかの形でアレルギーが出ています。それは皮膚炎だったりぜんそくだったり色々ですが、環境問題はまちづくりの中で絶対見逃してはいけない問題だと思います。それから、子ども達の体力が大変低下しています。これは、小さい時から歩いていないことが原因のひとつです。先ほど自転車の話がありましたが、親子連れはすごいスピードで走ってくる自

転車が怖いと言います。自転車と共存できない歩道がまちの中に存在するわけで、そういう所を無くして、安心して歩くことの出来る地域にする必要があると思います。

まちの空きスペースにビルが建つと、壁面緑化だとか屋上緑化だとか言われます。しかし、私はその前に、ビルを建てるのではなく草木を植えることを考えることも必要ではないかと思います。ある部分では、これはやってはいけない、ここは諦めなければいけない、残さなければいけない所では開発を諦めることも、これからは絶対に必要ではないか。何でもかんでもイケイケという時代ではないのではないかと思います。

井沢　量的拡大を否定はしませんが、重点の置き方として質的充足、質の面に注目したビジョンがこれから重要になると思います。また、7 つの目標は並列ではなく、優先順位あるいは横並びではなく立体的に組み立てるという、そういうことが必要ではないかと思います。

また、重要度については、「安全・安心」が基本にあると思います。阪神・淡路大震災が起こった時、我々は静岡か東京か、東の方で大地震が起きたと思いました。大阪の人でも名古屋の大地震だと思ったらしい。みんな東の方で起きたと思ったのですが、実は神戸だった。つまり、それだけ不意打ちだったわけです。だから、安全・安心という基本的な分野にはきちんとお金を使う必要があります。また、災害については、コミュニティできちんと対応することが必要ではないか。地震が起こると、行政も企業も市民もみんな被害者になります。災害時に一番頼りになるのは周りの人々ですので、コミュニティと合わせて安全・安心を進める必要があると思います。

次に「モノづくりの国際競争力」「名古屋の都心機能の強化」等々、この辺も非常に重要だと思います。特に道路は、整備が目的化しています。本来、道路は何かの目標を達成するために作るのであり、道路整備そのものを目的化するのはおかしな話ですので、それを踏まえてビジョンを組み立てる必要があると思います。

Ⅴ番については、名古屋における公共空間の有効活用に通じる話だと思います。Ⅱ番の都市の話については、まちの風格というものがこれからは求められると思います。各地域それぞれお国自慢があると思いますが、名古屋は中部を代表する都市としてそれを明確にする必要がある。まちづくり、モノづくり、人づくりの点で、日本一のものがあります。世界遺産に指定された姫路城と、京都の二条城の御殿を足したものが名古屋城です。本丸御殿だけでなく、天守閣も何百年かけても作り直してシンボル化する必要があるのではないかと考えています。

7 つの目標を達成するためには、企業も市民も行政も力を発揮できる、そういう関係づくりを進める必要があるのではないか。その中で「住民参加、民間活力」というキーワードが出てくると思いますが、そういう言葉では弱いという気がしています。ベンチャーとかコミュニティビジネスとか、あるいはＮＰＯという言葉をきちんと出したうえで、これからは誰が主体になるのか、そしてその主体を育てるという視点を是非、このビジョンの中に入れて欲しいと思います。

飯田　こういう目標を作ることは、非常に良いことだと思います。但し、過去 30 年間くらい、全総計画や色々な都市基本計画のほか、民活法などもありましたが、果たしてそれで一体どうなったのか。現状を見ると「20 世紀の負の遺産」が山積みのままにある。この様な新しいビジョンを作ったら、是非具体的なアクションプランが要ると思います。この部分から確実にまちづくりを進めていくという、分かり易い情報発信をして欲しい。

2 番の名古屋の国際都市化については、議論を深める必要があると思います。上海はこの 10 年間に US ドルで 400 億ドル、日本円で 4 兆くらいの投資をしています。そして、今後さらに 20 年

くらいかけて、その 9 倍から 10 倍の投資をしようとしています。そういう都市が東南アジアに幾つかあるとすると、産業は確かにかなり先端的なものを持っているわけですが、名古屋の国際化には、どの様な都市にして行くかという、明確な哲学が必要なのではないかと思います。

東京で自己紹介をしながら名古屋の話をすると、ほとんどの人が名古屋には 1 回くらい仕事で行ったことはあるがそれ以外行ったことがない、あるいは、乗り換えをしただけという話になります。中部圏は、観光資源や歴史などの文化はありますが、誰も降りてこない。そういう現実があるということだと思います。そこをどうしていくのかを、本当に真剣に考えなければいけない。そのためには、まちづくりのための「人づくり」が必要だと思います。

私のお寺は大津通りと前津通りに面しており、門を開放して 24 時間どなたでも通り抜けしていただけるようにしています。イメージとしては、ニューヨークのポケットパークくらいのものを自分なりに作っています。こういうことは、市民の皆さん全部はやれませんから、例えば、都心のあるエリアを人が自由に歩ける、子供が自由に遊べるという、一定の都心のエリアを人間優先の空間にするという、そんなコンセプトが名古屋には必要ではないでしょうか。

藤田　ありがとうございました。皆さんのご意見には、住民参加関連で公共事業に関わる組織や人の育成体制をどうするのか、ということを気にされている方が多かったと思います。その辺、行政の方から今後の見通しについてお話しできませんか。

丸山　難しいご質問なので、なかなか明確にはお答えできませんが、こういう討論会を続けさせていただいており、これを決して終わりにしたくないと思っています。また、パブリックとプライベートの解釈の問題があると思います。パブリックとプライベートという言葉を、官・民と訳していますが、この概念を多分外国人は誰も理解しないと思います。それを本来あるべきプライベートとパブリックという形に戻していくための試行的な作業が、このビジョンづくりだと思っています。また、ビジョンを作ることが目的ではありませんから、それをいかに新しいプライベートとパブリックの関係の中で実現化させていくのかということが非常に重要だと思います。

若林　確かに報告書を山積みしても仕方ないですから、これから動いていかなければいけない。私たち国土交通省としては、名古屋市、県と手を組んで進める時に、誰が予算を負担するのかが非常に重要だと思っています。私ども行政も住民の皆さんと考えている目的は全く同じです。誰がどういった形で足を動かすのか、手を動かすのか、口を動かすのか。これはまんなかビジョンの策定作業から変わってくるのだと思っています。

菅野　名古屋市では、2010 プランを策定し、鋭意実行計画、執行監理も含めて進めている段階です。今日は沢山の方から色々なご意見を拝聴し、2010 プランを少しでも円滑に推進するように努めたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。

藤田　ありがとうございました。鈴村さんは自分たちで守るんだという話をされましたが、今後住民がどういう行動をしていけば良いかという点について何かご意見はありますか。

鈴村　例えば、街路灯が切れた時には、管理者である名古屋市、あるいは国土交通省が直しに来てくれます。住民が切れていることをいち早く見つけて、管理者へ早く報告する。要するに、み

んなの目が常にそこにあるということだと思います。地域の目があるということで、犯罪も減ります。夜まちが明るいことは防犯に繋がるでしょうし、放火の問題にしても一緒だと思います。そういうちょっとした一つひとつのことが、大変大事なことではないかと私は考えています。

藤田　ありがとうございました。ちょっとしたことでも一人ひとりが配慮していけば大きな力になるということだと思います。もう 1 つ環境問題では、自転車の話題が沢山でました。原さん、自転車についてご意見はありませんか。

原　私も全て自転車でというわけではありません。TPO で自転車を使って下さいということです。例えば、家から車で煙草を買いに行っていたのを、歩くか自転車にすればそれだけ良いわけです。ベストミックスという形が必要なのではないか。いわば贅肉を落とすという感じです。何でもかんでも車を出していたのを、ちょっと意識を変えてもらえば良いのかなということです。ヨーロッパには、電車に自転車を乗せるサイクルトレインがあります。名古屋のまちもそういった形で、公共交通手段と自転車がベストミックスできれば良いと思います。

井沢　今、名古屋駅や栄の駐輪は、滅茶苦茶の状態です。それが歩行を阻害し、車椅子の阻害にも繋がっていると思います。都心の整備では、自転車を何処に置くかということをセットにして考えないと、都心空間はゴチャゴチャになるのではないか。自転車問題では、その辺のところを含めて提案できると非常に面白いと思います。

原　自転車愛好家の連中と話をしていると、こんな所に自転車が溢れているのは行政が悪いという話になります。しかし、実はこれは、そこにある企業が悪いのであって、例えば松坂屋の前には駐輪スペースが無いわけです。高島屋も駐輪場を用意してない。名古屋市はこの 10 月から、建物を建てるときに何台以上の駐輪場をつけろという付置義務が施行されるということなので、ゆっくり変えていく必要があると思います。やはり、何よりマナー、ルールですので、子供のうちからしっかり教え込むのが良いと思います。

井沢　公共の場所に自転車を置くのは、基本的にダメだと考えています。全部民間がコントロールすべきだと考えています。

藤田　ここで、会場からご意見を承りたいと思います。

聴講者　中部国際空港が 2005 年に開港します。地元では、コミューター航空を名古屋空港に残せという話がありますが、私は、コミューター航空も中部国際空港へ持っていって、中部国際空港の強化を図るべきではないかと思います。

藤田　国際拠点都市名古屋のための空港のあり方に関わる話だと思います。これで討論を終わりたいと思います。最後に私の方で、まとめさせていただきたいと思います。

非常に多くの視点から意見がでましたが、「使いにくくなっていないか」という言葉に共通する所があると思いました。子供にとって使いにくくなっていないか、自転車にとって使いにくくなっていないか、歩行者にとって使いにくくなっていないか、まちの魅力として道路が使いにくく

なっていないか。「いろんな所で使いにくくなっていないか」ということで全部が繋がって来る、「使いにくくなっていないか」ということで住民の方々の意見を聞くことが重要であると思います。

それから、「気づいていないのではないか」という話がありました。他地域の人に名古屋には住みたくないと思われて、皆さん通過しているのですが、実は住んでいる者は住みにくいとは思っていないということだと思います。製造業も交流活動もしっかりしているはずなのに、持っているものをしっかり情報発信していないのではないか。名古屋の気質が影響しているのかもしれませんが、きちんと自己主張するような名古屋を目指していく必要があると思って聞いていました。

もう１つは、モノづくり、人づくりの分野で、ＮＰＯや住民参加のあり方をどうしていくか。人づくりの原点は子供たちです。子供たちが生き生きと健康に育つような環境にしていくことも重要ではないか。

また、住民参加の目的は、意見を聞いて集約し、それを施策に反映することだと思います。また、住民参加の会そのものが、住民個人にとっては交流の場になると思います。それが刺激の場になる。そして、それが「人づくり」にも繋がると思います。他人の意見を聞き、他人の意見に刺激を受けて、また新しい発想で地域の課題に気がついたり、新しい将来像に気がつく。そうした意見のキャッチボールによって、意見の上に意見が積み重なることになります。それを公共事業では、これまで行政主体でやってきた。これからは、行政がもう少し住民の意見を聞き、意見を集約して施策に反映することで、ベストな方向性を出して行くということだと思います。

最後に、「地域づくりは人づくりである、人づくりは住民参加、そしてＮＰＯ等の主体づくりが必要である。」ということに対して、行政がどう支援するかということが重要になってくる。道や河川等のハードにではなく、如何に人や組織というソフトなものに公共投資をして行くか、フォローアップをして行くかというのが今後の重要な課題であろうと思います。ありがとうございました。

司会　藤田先生、コーディネート役、多数の意見の集約をありがとうございました。最後に、本日の討論会の閉会の挨拶を、主催者を代表して中部地方整備局の丸山から申し上げます。

丸山　8回の討論会の最終回にふさわしい活発なご議論をありがとうございました。発言者の方々には時間が少ない中でまとめていただき、ありがとうございます。それから、会場の方々には、アンケートなどへのご協力ありがとうございました。また、最後におまとめいただきました藤田先生には、本当にありがとうございました。今日の結果は至急取りまとめまして、私どもと名古屋市のホームページの中で紹介させていただき、色々な場面で皆様方の目に触れるようにしたいと思います。また、「まんなかビジョン」は、まだ達成途上ですので、今日のご意見を十分に踏まえて皆様方に信頼いただけるようなビジョンにしていきたいと考えています。これで終わりではございません。これから実際にこのビジョンを実現化していく中で、もっと皆様方に色々なご意見をいただく必要があると思いますので、よろしくお願いいたします。本当にどうもありがとうございました。

以上